

授業改善推進プラン

小笠原村立小笠原小学校
校長 横山 優美

(1) 今回の調査結果より

学力調査では、前学年で学習した内容が出題されており、学校全体としては、基礎的・基本的な知識・技能の定着に依然として課題が見られた。

全国学力学習状況調査では、教科全体の平均正答率については、都の平均正答率と比較して、

1. 0%上回っている。元年度調査が-10.0%であったことから、習熟の程度に応じた指導方法や指導内容等の工夫により、一定の成果が見られたといえる。

①生活行動アンケートの調査結果より

生活行動のアンケート結果を分析して見ると、全学年で「夜は、時刻を決めて寝ている」、「睡眠不足にならないようにしている」、「学校に出かける前に忘れ物がないか確かめている」、「家では、勉強する場所を決めている」、「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」、5・6年生では、「勉強するときは、集中して勉強している」について、上位層が下位層よりも数値が高く、生活の自己管理ができてきている児童の方が良い結果となっていることが分かる。

②学習行動の基本質問結果から

学習行動のアンケート結果を分析して見ると、「授業で分からないことが、先生に質問をしている」や「授業は分かっている」について、上位層が下位層よりも数値が高く、授業内で理解しようとする意欲が高い。授業での机間指導を増やし、児童のふり返りを参考にして、授業改善を図る必要がある。また、家庭で「授業のために予習をしている」、「授業で習ったことは、復習をしている」についても上位層が下位層よりも数値が高いことから、今後も本校作成「家庭学習のすすめ」を基に、家庭と連携して家庭学習を推進する。

③各教科の課題について

領域別に見ると、主に国語科では「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」、算数科では「数と計算」、「データの活用」に正答率の低さが見られた。

今年度本校では、学力向上に向けて算数「数と計算」に重点をおいて研究を進めている。調査結果を活用しながら今後も授業改善に努めていく。

A 村学力調査の概要

時期	対象学年	教科等	
5月	2～6年	2・3年 国・算	3～6年
		4～6年 国・社・算・理	学習・生活に関する意識調査

B 村学力調査結果

教科全体の平均正答率 (%) について ※ () 内は、全国の平均正答率との差

		国語	算数	社会	理科
2年	R1	79.6 (−0.7)	84.1 (−0.7)		
	R2	83.1 (−1.0)	79.8 (+0.6)	—	—
	R3	70.2 (−6.7)	77.7 (−5.3)		
3年	R1	71.9 (−1.8)	73.0 (−1.5)		
	R2	79.6 (+7.6)	81.5 (+9.9)	—	—
	R3	75.5 (+3.4)	78.5 (+3)		
4年	R1	69.1 (+1.0)	77.8 (+3.2)	73.2 (+8.7)	72.2 (+7.5)
	R2	64.9 (+0.4)	76.9 (+4.2)	59.9 (−6.0)	64.2 (+1.6)
	R3	69.1 (−0.2)	75.1 (+4.2)	67.2 (−1.6)	64.1 (−4.8)
5年	R1	73.6 (−0.2)	65.8 (−1.5)	57.9 (+1.0)	69.8 (+1.0)
	R2	71.5 (+2.4)	70.7 (+5.0)	70.1 (+8.2)	70.4 (+5.3)
	R3	69.7 (+1.9)	60.7 (−0.4)	54.2 (−0.3)	54.1 (−14)
6年	R1	64.0 (−6.2)	51.5 (−12.3)	58.4 (−6.9)	56.4 (−3.5)
	R2	76.4 (+4.4)	61.5 (−3.0)	68.6 (+0.4)	69.0 (+0.8)
	R3	64.7 (+2.2)	68.0 (−0.8)	65.6 (+4.9)	64.1 (−2.1)

R1…令和元年度調査結果 R2…令和2年度調査結果 R3…令和3年調査結果

※授業改善推進プランなどの詳細については、学校ホームページに掲載予定。

④全国学力学習状況調査の結果

令和元年度及び令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果に係る検証方法について

学力調査結果における下位層から上位層までの割合、教科の内容及び観点別の正答率を令和元年度と比較し、本校における学力の状況や経年変化を把握・分析することで、習熟度別授業の方法や指導の手だての見直しを行う。

実施計画に対する効果、効果検証結果

【教科全体の平均正答率及び領域別の正答率について】

	本校 (%)	差	都 (%)
教科全体の平均正答率	75.0	+1.0	74.0
(前回)	60.0	−10.0	70.0
数と計算	67.9	+2.5	65.4
(前回)	55.4	−11.3	66.7
量と測定	74.6	−3.1	77.7
(前回)	38.5	−19.0	57.5
図形	57.1	−6.6	63.7
(前回)	78.1	−0.9	79.0
数量関係	92.1	+12.3	79.8
(前回)	61.6	−10.6	72.2
データの活用	79.0	−0.5	79.5
(前回)	—	—	—

※「測定」は、「量と測定」、「変化と関係」は「数量関係」で比較

領域別に見ると、「数と計算」「数量関係」では、都の平均正答率を上回ったものの、「量と測定」「図形」「データの活用」については、課題が見られた。また、「量と測定」「図形」については、元年度から課題となっており、今後は、体験的な学習を取り入れた指導の充実を図る等、児童が実感を伴って理解することができる指導の工夫が求められる。

【下位層から上位層までの児童の割合】

	本校 (%)	差	都 (%)
A層	38.1	-12.6	50.7
(前回)	18.7	-30.3	49.0
B層	52.4	+20.6	31.8
(前回)	43.8	+15.2	28.6
C層	4.8	-8.8	13.6
(前回)	31.3	+16.3	15.0
D層	4.8	-0.9	3.9
(前回)	6.3	-1.1	7.4

※各層は、問題数ごとに4分位し、その割合を算出

本校と都における下位層から上位層までの割合を比較すると、令和3年度調査では、C・D層の割合は、都の割合に比べて少ないことが分かった。

また、令和元年度の調査では、C層が全体の3割を占めていたものの、令和3年度調査では、B層が全体の5割を占めていることから、下位層の児童の学習への意欲を高める指導等の工夫により、下位層を中位層へ引き上げる指導については、一定の成果が表れているといえる。

しかしながら、A層の割合は、令和元年度・3年度ともに、都の割合と比較して低くなっている。今後は、基礎的な基本的な学習内容の定着を図りつつ、B層の児童をA層へ引き上げる指導の工夫も必要である。

(2) 授業改善の取組について

① 令和3年度小笠原村の重点に対して

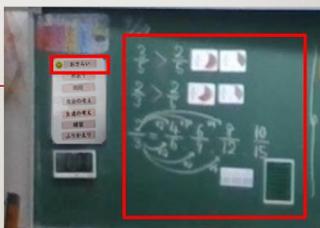
本校では小笠原村の重点に対して、授業UD、家庭学習、振り返り指導の確立、基礎・基本を徹底し、学ぶ意欲の向上を図るために、2つの取組みを行っている。1つは、「学力向上に関する取組(重点8項目)」を定めて指導をしていることである。

2つは、「分かった、できた」という児童の学力と実感を育むために、校内研究では、研究主題を「主体的な学びの実現に向けた授業づくり」とし、副主題を「『わかる』『できる』につながる算数の授業を目指して」として、授業改善に向けて研究を進めている。

「わかる」
既習内容の活用を考える手だてとしながら、課題解決できること



習ったことを生かして、解くことができるか?



導入時「おさらい」で既習内容の確認

既習内容の活用を促す発問

「できる」
数学的な表現を用いて、相手に説明したり、伝えたりできること



ペアやグループ交流で相手に伝える



ホワイトボードを活用し、全体に考えを伝える

基礎的・基本的な学力や生活習慣の定着について、大きな課題がある。また、令和2年度は、家庭学習の在り方についても課題が見られた。

その背景として、長年、学級担任の裁量による学級経営が行われ、学習や生活について学年の系統立てた指導がなかったこと、特色ある教育を重視した教育活動により、基礎的・基本的な学習の定着が図られなかったこと、家庭の学力向上に対する意識の低下等が挙げられる。

そのため、令和3年度は、4月から全教員が共通理解の下、学力向上に関する取組（重点8項目）について取り組んでいる。

A 学力向上に関する取組（重点8項目）による

取り組み

a 重点項目1 学習のきまり

令和元年度に、児童が学習に取り組む準備をできるように指導したり、学年が変わっても年度当初にスムーズにスタートができるようにしたりするために、「学習のきまり」を作成した。学習用具、授業の約束についての掲示物を教室に掲示し、年度当初や学期当初に児童と確認している。



b 重点項目2 生活のきまり

令和元年度に、教員一人一人の考えではなく学校全体で児童一人一人を指導できるようにする

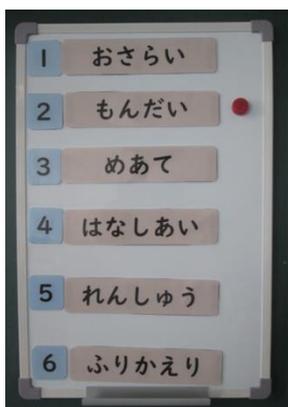
ために「生活のきまり」を作成した。教室に掲示し、年度当初や学期当初に児童と確認している。

c 重点項目3 家庭学習のすすめ

令和2年度、家庭学習について保護者にアンケートを行った。宿題の量や内容については、各担任による差があり、学校として系統的に指導する必要があることが分かった。そのため、家庭学習のすすめを改善し、内容や取り組み方については、保護者会等で家庭との連携を図っている。

d 重点項目4 授業・教室のユニバーサルデザイン化

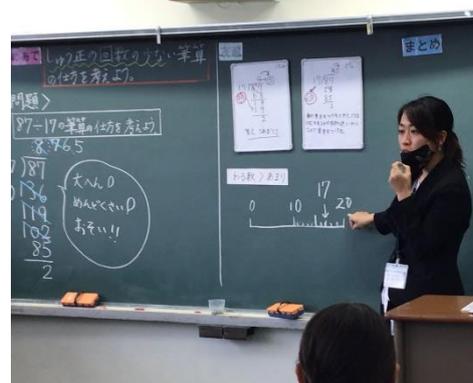
児童の視点から、教室が変わっても、教科が変わっても混乱がないよう、授業の在り方や適切な教室環境を整理する必要がある。そこで、授業や教室環境におけるユニバーサルデザイン化を推進し、全ての児童にとって「わかる」「できる」授業を実現していく。



授業の流れを提示



タイムタイマーの活用



わかりやすい板書の工夫

e 重点項目5 学びの過程のデザイン

本校の児童の実態として、主体的・対話的で深い学びへに向けて、基礎学力を向上させる必要がある。そのために、学びの過程のデザインを活用した授業を継続することで、児童の基礎・基本の定着を図っていく。令和2年度より、一単位時間の授業の進め方を示した「学びの過程のデザイン」を活用している。

f 重点項目6 スキルタイム

昼食・清掃後から5校時開始までの15分間を、基礎基本の定着を図る時間を「スキルタイム」とする。令和3年度2学期からは、オンライン学習（ドリルパーク ベネッセコーポレーション）と東書WEBライブラリーの問題集（紙媒体）を併用し、学習を進めている。



g 重点項目7 評価規準

年間指導計画を基に、教師が計画的に指導し、評価を基に、児童の成果と課題を確認する。また、児童と保護者が明確に評価の視点を理解し、学習の成果と課題を把握する。

h 重点項目8 児童による自己評価・授業評価

「わかる授業」、「できる授業」を実現するためには、日々の授業改善が必要である。その際、教員が自ら授業を振り返るだけでなく、児童が授業をどうとらえているかを知り、それを授業改善に役立てることが大切になる。また、授業は教員と児童が共同してつくるものであるという意識を児童に育むことを目的とする。

B 校内研究による取り組み

本校の算数科における児童の実態をみると、第6学年を対象とした国の学力調査及び第5学年を対象とした都の学力調査において、国や都の平均正答率を下回っている学年が多い。特に、基礎的・基本的な知識及び技能の定着に課題が見られる。また、都の学力調査（児童質問紙調査）において、「授業の内容がよく分かる」と回答した児童の割合は、都の平均回答率を大きく下回っている。

このように、第5・6学年の算数科において、学習の理解度が顕著に低いという本校の実態を踏まえ、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を特に重要な課題として設定した。

一方、児童が、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要である。我が国の優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められている。

特に、主体的な学びについては、学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点に立って授業改善を行うことの重要性が示されている。

これらのことから、児童の「知識及び技能」を育成するためには、教師が特に、主体的な学びの実現に向けた授業改善を通して、全ての児童が「わかる」「できる」と思える授業を目指していく必要があると考え、今年度の研究を進めることとした。

〈授業改善プラン 国語科〉

<p>1. 国語科の目指す「わかる」から「できる」授業</p> <p>新しく学んだ漢字、言葉、文で、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられることができる。</p>	
<p>2. 日常の児童の学習状況について</p> <p>〈話すこと・聞くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none">・単語で話す児童が多い。・話し合いでは、意見を言える児童と言えない児童の二極化が見られる。・話の内容を考えて聞いてない児童が多く、話し合い活動が深まらないときがある。 <p>〈書くこと〉</p> <ul style="list-style-type: none">・文章を書くことや構成を工夫して書くことが苦手である。・相手に伝えるときに、根拠や理由を書くことが苦手である。 <p>〈読むこと〉</p> <ul style="list-style-type: none">・物語文では、文章に書いてあることは読み取れるが、行間を読むことが苦手である。 <p>〈言語事項〉</p> <ul style="list-style-type: none">・語彙力が少なく、言葉の使い方が苦手である。	<p>3. 村学力調査の結果について</p> <p>〈学習行動〉</p> <ul style="list-style-type: none">・国語の授業で習ったことは、復習をしている。・国語の授業のために、予習をしている。・クロスワードなど、言葉を使ったパズルで遊ぶことがある。・新聞記事などを、自分の考えと比べながら読んでいる。・分からない言葉があれば、辞書を引いている。 <p>以上の項目が平均よりも低い数値となっている。</p> <p>〈学力調査〉</p> <ul style="list-style-type: none">○言葉の学習○物語を読み取る○説明文を読み取る○文章を書く☆漢字を読む☆漢字を書く○…目標値を下回っている内容☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容

〈授業改善プラン 社会科〉

1. 社会科の目指す「わかる」から「できる」授業

社会的事象についての知識を身に付け、さらに自分の言葉でその知識を活用することができる。

2. 日常の学習状況について

- ・一般的な社会的事象を知らない。
- ・根本的に知識が不足している。
- ・知識が定着していない。
- ・新聞やニュースを身近に感じるができない。
- ・膨大な学習内容を詳しく学習できていない。
- ・社会科の学習形態に慣れていない。
- ・表やグラフ、資料などを自分で読み取ることができない。

⇒社会的事象の見方・考え方が養われていない。

3. 村学力調査の結果について

〈学習行動〉

- ・社会の授業のために、予習をしている。
- ・社会の授業で習ったことは、復習している。
- ・社会の出来事を知るために、新聞を読んでいる。
- ・自分が歴史上の人物だったらどうしただろうかを考えたことがある。
- ・自分の食べている食品が、どこで生産されてきたかを考えることがある。
- ・知らない歴史上の人物が出てきたら、本で調べている。

以上の項目が平均よりも低い数値となっている。

〈学力調査〉

- 「日本の国土と人々の暮らし」「日本の食料生産」
- 「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」
- 「暮らしの移り変わり」「安全な暮らし」

☆「日本の工業生産」

☆「自然災害から暮らしを守る」

☆「店ではたらく人」

○…目標値を下回っている内容

☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容

〈授業改善プラン 算数科〉

1. 算数科の目指す「わかる」から「できる」授業

「わかる」「できる」を感じ、主体的な学びの実現につなげるために、解決の見通しをもたせる工夫、問題解決的な学習展開（課題把握→解決の見通し→自力解決→検討→振り返り）を行う。

2. 日常の学習状況について

- ・ 基礎的な解答方法を身に付けても、問題形式や文章表現、数字等が変わると解答できなくなってしまう。
- ・ 題意を捉えることができない。
- ・ 公式や筆算の順序等を学習した直後は記憶できているが、長期で取り組まないと忘れてしまう。

3. 村学力調査の結果について

〈学習行動〉

- ・ 計算や図形を使ったパズルで遊ぶことがある。
- ・ そろばんをやっている（やっていた含む）。
- ・ 算数の授業のために、予習をしている。

以上の項目が平均よりも低い数値となっている。

〈学力調査〉

- 数の表し方
- 表やグラフ
- 数と計算
- ☆かけ算

○…目標値を下回っている内容

☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容

〈授業改善プラン 理科〉

1. 理科の目指す「わかる」から「できる」授業

結果を理解し、実際に事象を活用できることである。

2. 日常の学習状況について

- ・方位磁針の使い方や方位について、定着していない。
- ・ふりこのきまりが定着していない。
- ・電流については、中学校で授業をすると理解できていない生徒が多い。
- ・予習や復習をする機会が少ない。一つの単元が終わると、その学習について学習する頻度がほとんどない。

3. 村学力調査の結果について

〈学習行動〉

- ・予習や復習をする機会が少ない。
- ・実験をするときは、準備や手順が持つ意味をよく考えている。
- ・実験の結果は、グラフや表に表している。
- ・理科などで学習した知識を家の人に話している。
以上の項目が平均よりも低い数値となっている。

〈学力調査〉

- 動植物の様子
- 天気の様子と変化
- 磁石の性質
- 電気のはたらき
- 流れる水の働き
- ☆動物のからだのつくりと運動
- ☆ふりこのきまり

○…目標値を下回っている内容

☆…目標値を上回っているが課題と考えられる内容

令和3年度 第1学年 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
国語	○ひらがな・かたかな・漢字の習得・活用 ○語彙や知識の習得・活用	○基礎学習時間の確保を図る授業の推進 ・経験したことを書く活動を多く取り入れ、書くことを習慣化させ、習ったひらがな・かたかな・漢字の日常化を図る。 ・言葉を集める学習をくり返し、言語の種類や長音、拗音、促音、撥音等の表記の仕方や助詞の使い方を繰り返し指導し、日常化を図る。	・新聞作りや日記など継続的に書くことに取り組んだ。段落を意識した文章力が付いた。既習漢字、片仮名の活用の日常化には継続して指導する必要がある。
算数	○加法・減法の意味理解	○基礎学習時間の確保を図る授業の推進 ・合併、増加、求残、求差の言語を視覚的し、文章問題において立式の根拠をもてるようにする。 ・既習事項の振り返りや反復練習を多く設定し、学習内容の定着を図る。	・文章を読み取り、立式する力がついた。答え方でもつづくことがある。問題文を丁寧に読む習慣の定着を図る。
生活	○知識・技能の基礎の定着	○観点の明確化、主体的な活動を促す授業の推進 ・気づきを大切にしたい体験活動の充実をする。 ・体験活動で感じた楽しさや様々な感覚を通して、感じたものを互いに言葉、文、絵、動作、劇化などモデルとなる言語活動を選択したり、自ら考えたりして表現活動の充実を図る。 ・気づきを表現しやすくするために、「見付ける」「比べる」「例える」といった観点を示し意識させる。	・植物など継続して栽培、観察することで、変化の違いに気づき、表現する力がついた。より気づきの表現が広がるよう工夫する。
体育	○学習の規律 基礎基本の定着	○基本的な動きを身に付ける授業の推進 ・いろいろな運動に触れて多様な運動遊びの機会多く設け、運動感覚を養う。 ・関わり合いの場面を意図的に設定し、教え、励まし合い、応援、ルールへの工夫など共に運動することの楽しさへの意識を養う。 ・服装の確認、集団行動（前へならえ、やすめ、気をつけ、体操の隊形、体育座り等）を取り入れる。	・基本的な動きを身に付けることができた。腕立て、腹筋を継続して取り組み、筋力をつけた。体を支える力、技能に個人差がある。個別に支援する。
道徳	○自分なりの考えをもち、発言する力	○自分の考え方や感じ方に気付く授業の推進 ・話合いの視点を明確にし、話合いをしやすくする。 ・考えをもつための時間の確保をしたり、自分の気持ちの視覚化したりする。 ・具体的な場面を思い起こさせることで、自分の生活とつなげて考えさせ、価値への意識付けを行う。	・ペアで話合う機会を多く設定することで、自分の考えをもち、伝え合うことができた。自分の生活と結びつけより深く考えていけるようにする。

令和3年度 第2学年 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
国語	○書く能力の向上 語彙の習得 漢字の定着	○言葉の力を身に付け、活用できる授業の推進 ・「はじめ」「中」「おわり」や段落を意識した文章を書く機会を増やす。 ・新しい言葉に着目し、正しい語彙の獲得を目指す。 ・日頃から丁寧な字を書くよう指導していく。	・漢字やノート指導から、止め、はね、はらいを意識して書くよう指導した。文章を書くことは、まだ練習が必要である。
算数	○基礎学力の定着	○基本を生かした問題解決型授業の推進 ・場面や数の意味が具体的にイメージできる場の設定をする。 ・長さ、時計など学習したことを生活場面で活用する。 ・基礎学力の定着のため、日ごろの授業から復習や学習のふり返りを取り入れていく。	・既習内容や問題を可視化することで、より具体的にイメージしやすいよう授業を組み立てた。授業の流れをパターン化し、毎時間前時の復習を行った。個人差については個別の支援が必要である。
生活	○身近な環境についての学びの充実	○豊かな活動や体験を確保した授業の推進 ・様々な活動を体験できる場の設定。 ・児童に身近な題材を活かし、児童の気付きを増やす工夫をする。 ・互いに聴き合える場の設定→まとめる力、伝える力の向上を図る。	・実際に体験する場を多く設定した。また、授業の中でどんなことをしたいか、児童の意見を中心に学習を進めることができた。学習のまとめ方法は具体例の提示が必要である。
体育	○基礎の定着 活動の工夫	○活動やルールの工夫をして運動を楽しく行う中で、基本的な動きを身に付けていくことができる授業の推進 ・友達の動きを観察する場面や、模範を示して技術的な指導を行う場面の設定をする。 ・友達と協力し、みんなで楽しめるような活動の場を設定する。	・基礎体力向上のための補強運動や、様々な動きを取り入れて指導した。技術向上のために、細かい部分まで丁寧に指導することが必要である。
道徳	○自分の考えを友達に伝える 様々な考えに触れ、考えの幅を広げる	○自分の考えを文章に表し、友達にはっきり伝えられるような場を設定する授業の推進 ・自分と違う考えに触れ、多様な感覚を身に付けられるよう話し合い活動を行う。	・毎時間必ず自分の考えを書き、友達に伝えるといった活動の場を設定した。様々な考えに柔軟に対応できるようにするために、違う考えがあってよいということを伝えていく必要がある。

令和3年度 第3学年 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
国語	○言葉の学習 ○漢字の学習 ○書くこと	○言葉における基礎・基本の定着を図る授業の推進 ・文章を書かせる機会を増やすと共に、新出漢字を活用させる。 ・読書の量を増やし、質を高めて、語彙を増やしたり、様々な表現方法に触れたりする機会を増やす。	・辞書を活用したり、書く機会を増やしたりして、書く力が付いた。個人差については、個別に指導する。
社会	○学習の進め方	○学び方における基礎・基本の定着を図る授業の推進 ・社会科における学び方を理解させる。 ・1、2学期は全体で進め、3学期は少人数で学習を進められるようにする。	・グループで課題を見付け、学習計画を立てることができた。教科書の一般的な内容については、補習が必要である。
算数	○三角形と四角形 ○表やグラフ	○図形やデータの活用における基礎・基本の定着を図る授業の推進 ・表やグラフを読んだり、書いたりする技能を高めると共に、活用する機会を増やす。 ・具体物の操作を通して、図形の構成を感覚的に捉えられるようにする。	・図形は、具体物を実際に操作し描く活動を通して、出来るようになった。表やグラフを活用する機会が少なかったため、今後は学習機会を増やす必要がある。
理科	○単元で学んだことの定着	○基本的な理解の定着を図る授業の推進 ・既習の内容を基に、学習課題を立てたり、根拠のある仮説を立てたりする学び方を定着させる。 ・実験や観察を通して、理解を深めさせる。	・実験や観察のポイントを押さえて、実習することで理解が深まった。今後も復習を活用し、既習事項の定着を図る。
体育	○器械運動 ○水泳運動	○学習のポイントを視覚化する授業の推進 ・器械運動における技のポイントを示し、一人一人の運動量を確保する。 ・学習の振り返りでは、自己評価と他己評価を行い、課題解決のための工夫や考えを共有する。	・課題解決に向けて、工夫するしたり、助言し合ったりする姿が見られた。体力の差が見られるようになってきたので、個別に支援する。
道徳	○自分と結びつけて考えたり、振り返って次へつなげたりする力	○主体的な学びを実現する授業の推進 ・切実感のある課題を設定する。 ・自分の考えをポートフォリオ化し、既習を基に、自分の考えの変化を振り返ることができるようにする。	・日常を振り返ることで、自分の考えを深めることができた。今後は学んだことを実践できるように助言する。
総合	○課題解決に必要な知識・技能	○探究的な学習のよさを理解する授業の推進 ・探究的な学習過程を通して、自分自身で情報を取捨・選択し、整理できるように、思考ツールを活用する。	・体験的な活動を通して、主体的に課題を追及できた。学んだことを他の学習にも生かせるように助言する。

令和3年度 第4学年 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
国語	○書く・読む能力の向上 (漢字・作文)	○語彙を豊かにし、既習を活用できる授業の推進 ・日記、音読を継続し、漢字を書く、読む、習慣付けをし、語いを使う練習をする。 ・文章を書く機会を増やし、構成を考えた文章の練習をする。	・文章を書く活動では、段落・主語・述語を意識させることで文章力が高まった。語彙力、文章力に個人差があるので、個別に支援を行っていく。
社会	○知識・理解の定着	○社会的事象について知識・理解の定着を図る授業の推進 ・基本的な知識を身近な事柄と関連させて興味をもって考え、資料の見方、活用の仕方を習得し、基礎の定着を図る。 ・「自分にできること」という視点での思考、社会参画の意識向上を図る。	・資料の読み取り、活用の仕方ができるようになった。まとめる機会を増やしたり、まとめる方法したりして、表現する力が付いた。個人差については、個別に指導する必要がある。
算数	○数量や図形についての技能	○量感を捉えられる授業の推進 ・日常生活での必要性や活用を意識させ、数字や計算で表す良さを実感できるようにする。 ・測定の考えを用い、図形を構成する要素に着目することで、公式の導き出し方を身に付けさせ、問題と向き合ったときに、公式を想起できるようにする。	・児童の習熟に合わせた学級編成を行えたことで、一人一人のアセスメントから指導できた。単元や児童によって理解度の差異が見られた。個人差については、個別に指導する必要がある。
理科	○主体的に学習に取り組む態度	○知識を意欲的に獲得し、表現できる授業の推進 ・観察や実験など体験を通して学習の意欲、理解を深める。 ・観察や変化の違いなど見る視点をもたせ、表現する力を伸ばす。	・日常生活の中から、予想を立てたり、キーワードをヒントに考察させたり、自分の考えをまとめる力が付いた。予想の理由を具体的に書く力に個人差がある。
体育	○走跳の運動	○日常的に走る運動を取り入れる授業の推進 ・走の運動遊び授業に取り入れる。 ・スタートダッシュとゴールの正しい取り組み方を理解し、練習する。	・グループでの教え合い、気付きや振り返りを生かし、活動内容が深まった。腕立てや腹筋、背筋などの筋力を使う運動に個人差が見られるようになった。
道徳	○考えを深める力	○学んだ価値に照らして自分を見つめ、自己の生き方について考えを深める授業の推進 ・既存の価値観を揺さぶる等の発問を通して、自分の考えを深める。	・話し合い活動を通して、考えを広げたり、深めたりすることができた。発問の精選は、今後も必要である。
総合	○表現する力	○発信する授業の推進 ・必要な情報を収集し、内容をまとめ、はっしんする場を通して、表現する力を伸ばす。	・児童の力で課題を見付け、調べ、まとめ、発表する活動を行うことで、表現する力を伸ばすことができた。

令和3年度 第5学年 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
国語	○語彙力・言葉・漢字の知識 ○書くこと	○繰り返し基礎基本の習得、定着を図る授業の推進 ・言葉や漢字など、既習内容のドリル学習をする。 ・文章を書かせる機会を増やす。 ・自分で辞書を活用して、調べ、確認し、自分の言葉で文章に活かす。	・漢字学習に対する意欲は高まった。読む・書く力に個人差が見られる。書く機会を増やし、漢字や読みの復習が必要である。
社会	○知識・理解 ○資料を読み取る力	○社会的事象における知識・理解の習得、資料を読み取る習慣を身に付ける授業の推進 ・社会的事象における用語の理解、定着を図る。 ・表やグラフなどから社会的事象を自分事として考えられる、読み取る機会を増やす。	・学習問題を主体的にまとめようとする意欲は高まった。社会的事象のまとめ方や意見の書き方には課題がある。
算数	○基礎基本の理解・定着 ○読み解く力・活用する力	○基礎基本の理解、定着、活用を図る授業の推進 ・繰り返し基礎基本の計算など既習内容のドリル学習をする。 ・表やグラフを読んだり、自分の言葉で説明したりする技能を高めると共に、活用する機会を増やす。	・学び合いには前向きである。既習内容の定着や活用には、個人差が見られる。定期的な復習や個別の支援が必要である。
理科	○知識・理解 ○考える力	○自然事象における知識・理解の習得、資料を読み取る習慣を身に付ける授業の推進 ・自然事象における用語の理解、定着を図る。 ・図や写真、表やグラフなどから自然事象を自分の言葉で考える、読み取る機会を増やす。 ・学習課題を立て、仮説・実験（観察）・予想・結果・考察・感想という学習過程を身に付ける。	・問題解決型の学習サイクルが定着してきた。自然事象における知識の習得、定着、資料を読み取る技能に、課題がある。
体育	○ゲーム・ボール運動 ○思考力	○体を動かすことへの興味関心、運動量の確保を保障する授業の推進 ・一人一人の運動量を確保する。 ・様々なゲーム・ボール運動をする機会を増やし、体を動かす楽しさを味わう。 ・毎時間、自己・他己評価を行い、課題解決に必要な思考力、次に活かす力を育てる。	・体を動かすことへの興味関心は高い。運動量も確保できた。体力、技能の個人差は大きい。自己評価、他己評価を通しての思考力に課題がある。
道徳	○考えを深める力	○道徳的価値に触れながら、自己を見つめ、自分の生活や生き方について考えを深める授業の推進 ・周りの考えを聴きながら、学習課題を自分事としてとらえ、自己を振り返り、自分で考える機会を増やす。	・教材を通して、議論は進められる。自分事として捉えることに課題がある。自分自身と葛藤させる発問の工夫が必要である。
総合	○探究心	○課題解決のための探求心を育てる授業の推進 ・興味関心を誘う題材を提供する。 ・自分自身で必要な情報を収集し、整理し、自分の言葉でまとめる機会を増やす。	・体験的学習を通して、自分たちでまとめる機会を多くもち、課題を追究する力が身に付いた。

令和3年度 第6学年 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
国語	○書く・読むの能力の向上 (説明文)	○言葉の力を身に付け、活用できる授業の推進 ・説明文の接続詞に着目し、意味や役割について復習しながら授業を展開していく。 ・文章の構成、要旨をつかみ文章を書く機会を増やしていく。	・主語・述語の関係・接続詞に着目し説明文を読むことができた。
社会	○知識・理解の定着	○社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う授業の推進 ・既習学習を振り返り、学習したことを確認する。 ・地図帳や統計などの基本的資料を用いて、根拠や理由を明確にして議論する力の定着を図る。	・資料や時代の背景から事象の根拠を理解することができたが、議論する力に課題がある。
算数	○分数についての技能	○分数や小数についての知識・理解の定着を図る授業の推進 ・自分の考えや考えを高めたりするために、数学的表現で説明できるようにさせる。 ・既習事項の振り返りを多く設定し、四則計算の基礎学力の定着を図る。	・既習事項の定着に個人差がある。自ら考えをもち課題解決することができたが、数学的表現を用いて説明できない。
理科	○体験的な学習活動	○直接体験を充実させる授業の推進 ・自然の事物・現象を提示し、自然の中で関心や意欲を高め、そこから問題意識をもたせ、主体的に追究する意図的な活動の場を設ける。 ・遠足や移動教室など自然に触れ合う体験学習を積極的に活用する。	・結果から新たな疑問をもつことができるようになった。知識を体験学習に活用することができた。
体育	○保健領域の知識理解の定着	○心の健康に関する課題を見付け、表現できる授業の推進 ・心と体との密接な関係にあることを自己の経験と学習したことを関連付けさせる。 ・心の健康を維持するために、日常的に個別面談を行い、個に応じた対処方法を説明していく。	・心と身体が密接に関係していることを理解し、日常生活に活用することができた。
道徳	○判断能力	○自分で判断できる力を身に付けさせる授業の推進 ・自律的に判断する活動を取り入れ、自主的な行動をする上で、自由と自分勝手との違いに気付かせる。 ・自主的な行動を尊重し、自由な考え方や行動のもつ意味やその大切さを実感できる機会を増やす。	・規範・帰属意識の向上により、自主的に行動することができた。
総合	○社会に参画する態度	○古くからの伝統や文化を探究していく授業の推進 ・タコの葉の体験的学習、校外学習を通して、よりよい郷土の創生に関わっていることを理解させる。 ・地域の伝統や文化とその継承に力を注ぐ人々との関わりの中で、追究課題を設定させ、よりよい解決に向けて地域社会で行動できる態度を養う。	・社会に参画するためのプレゼンを行うなど、意識が向上した。地域社会に目を向ける態度が養われた。

令和3年度 専科 授業改善推進プラン

教科	学習の課題	授業改善策	成果と評価
算数	<ul style="list-style-type: none"> • 基礎的な解答方法を身に付けても、問題形式や文章表現、数字等が変わると解答できなくなってしまう。 • 題意を捉えることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 多くの問題に取り組む機会を設けることで、学習したことを活用して自力解決する経験を多くする。 • 問題文から読み取れること、分かることを明確にする活動を繰り返し取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> • 東京都の診断テストにおいて、4学年とも4月からの学習到達率が向上した。 • 基礎的な四則計算については、概ね身に付けることができているが、題意を読み取り、既習内容を活用する問題については課題がある。 • 公式や単位の仕組みなどの知識の習得が低い。機械的な操作に陥ってしまい、学習内容の定着ができていない児童がいる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> • 聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。 • 自然で無理のない歌い方で歌う • 音符、休符や記号について理解する • 音色や響きに気を付けて楽器を演奏する。 	<p>○常時活動を系統的に工夫して行う授業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> • 手遊び歌等を通して聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考える。 • わらべ歌等、短い旋律の教材を通して自然で無理のない歌い方を身に付ける。 • フラッシュカードやスライド等を活用し、表現活動と結びつけながら意味や使い方を覚える。 • 表現に必要な技能を個別に見取る機会を設け、支援が必要な児童については特に丁寧に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 常時活動を通して、聴き取ったことと、感じ取ったこととの関わりを考えられるようになった。 • 自然で無理のない歌い方は、まだ十分に身に付いていない。 • フラッシュカード等を活用し、表現活動と結びつけることで、音符や記号に関する理解が深まった。 • リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指に、つまずきがある児童が若干いるため、引き続き支援が必要である。

<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 技能をしっかりと習得し、創造的に組み合わせたり、発展させたりする力を身に付ける。 • 発想や構想、思いを広げて、まとめていく力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 安全面の指導を必ず行う。 • 様々な材料や用具に使える活動を充実させる。 • 身に付けた技能を繰り返し使える機会を増やし、定着を図る。 • 工夫している児童の作品、様々な参考作品や考え方などを紹介する。 • 材料や道具などの使い方で工夫できるところや組み合わせでできることなどを確認する。 • アイデアスケッチ、ワークシートなどを活用してアイデアを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 材料や用具を児童自ら考えて使用するなど、発想の広がりが見られた。 • 児童の作品紹介では、工夫を参考にするだけでなく、意欲を高める機会になった。
<p>家庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 裁縫や調理などの技術の定着と活用する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学習した知識・技能について家庭実践レポートや家庭学習の機会を増やす。 • 例や見本を見せたり他者の考えや作品に触れたりさせ支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> • 繰り返し学習することで、手縫いやミシンの技術が身に付いた。 • 技能を活用する機会をもっと増やすことが必要である。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーション能力の向上 	<p>○コミュニケーションを図るための素地を養う授業の推進（高学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> • スモールトークで簡単な語句や基本的な表現について理解させ、身近で簡単な事柄を聞き取る技能の定着を図る。 <p>○コミュニケーションを図るため基礎となる資質・能力を養う授業の推進（高学年）</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外国語の背景にある文化の理解を深めるために、ALT との交流を通して文化の理解を深める。また、具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーションを図るための語彙力が身についた。身近で簡単な事柄を聞き取ることができた。外国語に対して苦手意識をもつ児童やコミュニケーションが苦手な児童の意欲を高めるためには、個別支援が必要である。